

しおさい通信

No. 9 3

令和2年3月号

多機能型事業所しおさい
(就労継続支援B型・就労移行支援)

三崎：銚子市三崎町 3-82 TEL：0479-23-9012

春日：銚子市春日町 2058-1 TEL：0479-25-3475

HP：http://npo-new.org/

ちょっと遅い

初詣に行ってきました

2月1日(土)、香取神宮へ初詣に行きました。到着した一行は、境内の厳<おそ>かな雰囲気を感じながら参道を進み、拝殿に向って心願が成就<じょうじゅ>することを祈りました。参拝後、厄<やく>落としだんごを食べて身も心の清らかになりました。昼食は香取神宮からさほど遠くない所にある丸光亭という食事処で摂<と>りました。それぞれお好みのものを注文して食べましたが、量も多くて満腹になったようです。

午後は、東庄町にある“夏目の堰”(正式名は「八丁堰」)へ白鳥や鴨などの観察に行きました。堰の水面<みなも>にはたくさんの鴨が羽を休めていました。白鳥は日中、近隣の田んぼへ行って餌<えさ>をついばんでいることが多いため車で試してみましたが、この日は夏目の堰からは離れた所の餌場へ行って見当りませんでした。職員の小池さんによれば、1月25日には数百羽の白鳥がいたそうです。白鳥が見られず残念でしたが、冬晴れの日を楽しく過ごしました。



▲身を清めてから参拝。飲んだらダメだ〜ど！



~~1月25日の様子(小池さん撮影)~~

夏目の堰に白鳥が越冬のためにシベリアから飛来するようになったのは、2005年の冬からだそうで、以降年々飛来数が増え、近年では1000羽を超え、千葉県内では、印西市の白鳥の郷、いすみ市下布施と並ぶ三大飛来地となり、千葉県の特別鳥獣保護区に指定されています。飛来する白鳥のほとんどがコハクチョウで、オオハクチョウは数十羽程度とのことです。

飛来する理由については、周囲に民家が少なく安心して体を休められ、広大な干潟八万石の水田地帯で餌となる稲の落穂などがたくさんあるからではないかと考えられています。その白鳥たちも、2月下旬頃になると徐々に、4000km先の故郷・シベリアまでの北帰行を始めます。





わくわく広場でパン販売開始

銚子市小畑町にある「わくわく広場小畑店」で、2月4日（火）からパンの委託販売を開始しました。パンにはしおさいのラベルとは別に、店で販売するために必要なバーコードや税抜き及び税込み価格などが印字された専用のラベルも貼ります。

パンはしおさいの職員が運搬して指定場所に並べ、午前11時半頃から販売してもらいます。販売日は当面、火曜日・水曜日・金曜日の3日間です。まだ始まったばかりですが、パンを搬入すると既に待って下さっているお客さんがいらっしゃるようで、とてもありがたいことです。

▲店内に並べたしおさいのパン

販売に当たっては店側に販売手数料を支払う必要がありますが、売り上げ増加や近隣に住む買い物弱者の方々への貢献が出来ればと考えています。

▼わくわく広場小畑店



ブルーベリーの木 植樹

2月18日（火）、職員の一原さんのご実家から分けて頂いたブルーベリーの苗木10本を、銚子市春日町にある職員の小池さんの旧宅の庭（畑として借用）に植樹しました。まだ細い枝木ではありますが、早ければ来年の夏にも実がなれるかもしれないとのこと。野外作業班の方々には頑張ってもらい、甘酸っぱくておいしい実が食べられる日を楽しみに待ちたいと思います。



ブルーベリーは、ツツジ科に属する北アメリカ原産の落葉低木果樹の総称です。その果実が濃い青紫色に熟することから「ブルーベリー」と呼ばれています。欧米では昔から、野生のブルーベリー果実を摘んで食用にしていました。20世紀の始めより、アメリカ、カナダ原産の種類から品種改良が始められ、今日では世界の温帯圏で広く栽培される果樹となっています。果実はそのまま食べる他、ジャム等に加工作して食べます。【一般社団法人日本ブルーベリー協会のHPより転載】千葉県では木更津市が一大産地で、9つの農園がブルーベリー狩りなどを行って観光化させており、その中の1つ「のらり・くらり」は、NPO法人一粒舎くひとつぶしゃが就労継続支援B型の事業所としてブルーベリーを栽培している他、ジャムなどの加工品の販売も行っています。しおさいでは、平成24年8月に職員研修としてお邪魔し、栽培や畑の様子を見学させていただきました。

～編集後記～

スペースの都合でお休みします。